

第 3 章

シート防水の使い分けと標準工法

シート防水の標準工法を大別して、接着工法及び密着工法と機械的固定工法に分類し、さらにその工法を適用部位別に区分して、これらに対するルーフィングシートの種別ごとの使い分けを示す。
又、シート防水による安全で、確実な防水層を提供できるようにルーフィングシートの種別ごとの標準的な納まり図を示す。



3-1 シート防水層の種類

(1) 標準工法

シート防水層は、接着工法（7種類）、密着工法（8種類）、機械的固定工法（7種類）の22種類を標準工法とした。表3-1-1には、標準工法と材料種別の関係を示す。

表3-1-1 標準工法と材料

区分	KRK工法番号	工法名称	下地	工法の特長	RV	RN	RP	RE	RT
接着工法	F101	露出接着工法	RC	豊富な色彩と軽量かつ優れた防水機能をもつ、シート防水の基本工法である。	○	○	○		
	F102	露出接着工法	PCa ALC	防水下地のムーブメントで破断しないよう工法的に処理されており、優れた防水機能を発揮する。	○		○		
	F201	軽歩行接着工法	RC	豊富な色彩と軽量かつ優れた防水機能をもち、併せて軽歩行が可能である。	○	○	○		
	F301	保護接着工法	RC	保護層を設けることにより、歩行が可能であるほか、広範囲の部位への適用が可能である。	○		○		
	F401	露出断熱接着工法	RC PCa ALC	豊富な色彩と軽量かつ優れた防水機能をもち、併せて断熱効果を発揮する。	○		○		
	F401S	露出断熱接着S工法	RC PCa ALC	断熱材を下地に部分接着とした下地の不陸の影響を受けにくい工法である。	○		○		
	F501D	保護断熱接着D工法	RC	断熱材が防水層の上層となるため保護層の影響を受けにくい。	○		○		
機械的固定工法	M101	露出機械的固定工法	RC PCa	シートを下地へ機械的に固定するので下地の影響を受けにくい。	○		○		○
	M102	露出機械的固定工法	ALC		○		○		○
	M201	軽歩行機械的固定工法	RC	機械的に固定するため、下地の影響を受けにくく、かつ軽歩行も可能である。	○		○		○
	M401	露出断熱機械的固定工法	RC PCa ALC	断熱材とシートを下地へ機械的に固定するので下地の影響を受けにくい。	○		○		○
	M403	金属下地断熱機械的固定工法	金属	乾式の金属下地への機械的固定工法。軽量でフラットな屋根となり下地も含めた工期が短い。			○		○
	M501*	保護断熱機械的固定工法	RC	防水層の保護と断熱効果の保持をはかり、かつ、歩行を可能にする。			○		
	M501D	保護断熱機械的固定D工法	RC	断熱材が防水層の上層となるため保護層の影響を受けにくい。			○		

密 着 工 法	C101	露出密着工法	RC	軽量かつ耐久性に優れた防水工法である。				○	
	C102	露出密着工法	PCa ALC	防水下地のムーブメントで破断しないよう工法的に処理された工法である。				○	
	C301	保護密着工法	RC	保護層を設けることにより、歩行が可能であるほか、広範囲の部位への適用が可能な工法である。				○	
	C301W	保護二層密着工法						○	
	C501D	保護断熱密着D工法	RC	断熱材が防水層の上層となるため保護層の影響を受けにくい工法である。				○	
	C501DW	保護断熱二層密着D工法						○	
	C601	地下後やり密着工法	RC	地下躯体構築後に施工する工法で、施工品質確保が容易である。				○	
	C604	地下先やり密着工法	山留	山留壁面に浮かして張る工法であり、後打ちコンクリートと密着する。				○	

注1： M501の保護層は、コンクリート平板、ウレタン舗装板などの既成製品とする。

(2) 標準工法の選定と適用

標準工法は、材料として日本産業規格（以下 JIS と示す）適合品、工法としては国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」（以下、「標仕」と示す）・同「公共建築改修工事標準仕様書」（以下、「改修標仕」と示す）・同「建築工事監理指針」（以下「監理指針」と示す）・同「建築改修工事監理指針」（以下「改修監理指針」と示す）、及び日本建築学会編「建築工事標準仕様書 JASS 8 防水工事」（以下 JASS 8 と示す）などに定められた工法並びに業界で多く採用されている工法とした。

今回の改訂では、ルーフィングシート防水による地下防水工法の標準的な納まり図をエチレン酢酸ビニル樹脂（EVA）系シートに追記した。また、各材料について工法の見直しを行い、工法の統廃合、エチレン酢酸ビニル樹脂（EVA）系シートの工法を「標仕」及び「JASS8」に合わせ、「接着」から「密着」へ呼称変更した。

なお、適用に当たっては次の点に注意する。

- ① 露出、軽歩行及び露出断熱工法は、原則として多雪地で雪下ろしを必要とする屋根には適用しない。
- ② 保護層に現場打ちコンクリート以外の保護材を使用する場合は、ルーフィングシート製造所の工法に従って選定する。
- ③ 地下後やり工法においては、防水施工するための十分な作業スペースを確保する。

(3) 接着工法及び密着工法と機械的固定工法

接着工法及び密着工法とはプライマー、接着剤を用いて、下地全面にシートを接着あるいは密着させる工法であり、機械的固定工法とは下地へ円盤状やプレート状の固定金具を用いて機械的にシートを固定する工法である。機械的固定工法の立上り部については、納まりの関係で接着工法を採用することもある。

(4) KRK工法番号

標準工法に記載されている番号の内容は以下の通りである。

RV : 加硫ゴム系シート (Roofing Sheets of Vulcanized Rubber)

RN	: 非加硫ゴム系シート (Roofing Sheets of Nonvulcanized Rubber)
RP	: 塩化ビニル樹脂系シート (Roofing Sheets of Polyvinyl Chloride)
RE	: エチレン酢酸ビニル樹脂系シート (Roofing Sheets of Ethylene vinyl-acetate)
RT	: 熱可塑性エラストマー系シート (Roofing Sheets of Thermoplastic Elastomer)
F	: 下地へ全面接着させる工法(接着工法) ; Fully Bonded
M	: 下地へ機械的に固定させる工法(機械的固定工法) ; Mechanical Fastened
C	: 下地へポリマーセメントペーストで全面密着させる工法 (密着工法) ; Cement Bonded
101	: 非歩行工法 (現場打ち鉄筋コンクリート下地)
102	: 非歩行工法 (板状下地)
201	: 軽歩行工法
301	: 保護工法
401	: 露出断熱工法
403	: 露出断熱工法 (金属下地)
501	: 保護断熱工法
601	: 地下後やり工法 (現場打ち鉄筋コンクリート下地)
604	: 地下先やり工法 (山留壁)
W	: シートの2枚張り工法
D	: 防水層が下層、断熱材が上層工法
S	: 断熱材を下地へ部分接着させる工法 ; (Spot Bonded)

3-2 標準工法と適用部位

表 3-1-1 に示した 22 種類の標準工法について、適用される部位を材料種別ごとにまとめたのが、表 3-2-1 「シート防水層の種類と適用部位」である。

また、標準工法と「JASS 8」及び「標仕」・「改修標仕」・「監理指針」・「改修監理指針」との対応も明確にした。

「JASS 8」及び「標仕」・「改修標仕」に使用される記号の内容を以下に示す（「監理指針」・「改修監理指針」については原則「標仕」に準じる）。

1) JASS 8 2022 年版記号

- S-RF : 加硫ゴム系シート防水工法・接着仕様
- S-RFT : 加硫ゴム系シート防水工法・断熱接着仕様
- S-PF : 塩化ビニル樹脂系シート防水工法・接着仕様
- S-PFT : 塩化ビニル樹脂系シート防水工法・断熱接着仕様
- S-RM : 加硫ゴム系シート防水工法・機械的固定仕様
- S-RMT : 加硫ゴム系シート防水工法・断熱機械的固定仕様
- S-PM : 塩化ビニル樹脂系シート防水工法・機械的固定仕様
- S-PMT : 塩化ビニル樹脂系シート防水工法・断熱機械的固定仕様
- S-PC : エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水工法・密着仕様
 - ハイフン前の文字：防水層の種類を表す
 - S : 合成高分子系シート防水層 ; Sheet
 - ハイフンの後の1文字目；合成高分子系シート防水層：使用材料の系統
 - R : 合成ゴム系の防水層 ; Rubber
 - P : 合成樹脂系の防水層 ; Plastics
 - ハイフン後の2文字目；下地への固定形態、断熱材の有無もしくは適用部位を表す（各防水層共通）
 - F : 下地へ全面密着または接着させる防水層 ; Fully bonded
 - M : 下地へ機械的に固定させる防水層 ; Mechanical fastend
 - C : 下地へポリマーセメントペーストで張り付ける防水層 ; Cement paste
 - ハイフンの後の3文字目：防水層の種類により以下を示す
 - T : 下地との間に断熱材を組み込んだ防水層 ; Thermal insulated

- (2) 国土交通省「標仕」・「改修標仕」令和4年版記号
- S-F1 : 加硫ゴム系シート防水全面接着工法
 - S-F2 : 塩化ビニル樹脂系シート防水全面接着工法
 - S-M1 : 加硫ゴム系シート防水機械的固定工法
 - S-M2 : 塩化ビニル樹脂系シート防水機械的固定工法
 - S-C1 : エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水屋内保護密着工法
 - SI-F1 : 加硫ゴム系シート防水全面接着工法 (断熱)
 - SI-F2 : 塩化ビニル樹脂系シート防水全面接着工法 (断熱)
 - SI-M1 : 加硫ゴム系シート防水機械的固定工法 (断熱)
 - SI-M2 : 塩化ビニル樹脂系シート防水機械的固定工法 (断熱)

表 3-2-1 シート防水層の種類と適用部位

防水工法／種類		適用部位／箇所			屋 根	ひ さ し	ベランダ	地下外壁
		標準厚さ(mm)						
接 着 工 法	加硫ゴム (RV-F)	露 出	非 歩 行	1.2	F101 F102	F101 F102	—	—
			軽 歩 行	1.2	F201	—	F201	—
			露出断熱	1.2	F401 F401S	—	—	—
		保 護	保 護	1.7	F301	—	F301	—
			保護断熱	1.7	F501D	—	—	—
			非加硫ゴム (RN-F)	露 出	非 歩 行	2.0	F101	F101
	軽 歩 行	2.0	F201		—	F201	—	
	塩化ビニル 樹 脂 (RP-F)	露 出	非 歩 行	1.5	F101 F102	F101 F102	—	—
			軽 歩 行	2.0	F201	—	F201	—
			露出断熱	1.5	F401 F401S	—	—	—
保 護		保 護	1.5	F301	—	F301	—	
		保護断熱	1.5	F501D	—	F501D	—	
		機 械 的 固 定 工 法	加硫ゴム (RV-M)	露 出	非 歩 行	1.5	M101 M102	M101 M102
軽 歩 行	1.5				M201	—	M201	—
露出断熱	1.5				M401	—	—	—
保 護	保 護			—	—	—	—	—
	保護断熱			—	—	—	—	—
	塩化ビニル 樹 脂 (RP-M)			露 出	非 歩 行	1.5	M101 M102	M101 M102
軽 歩 行			2.0		M201	—	M201	—
露出断熱			1.5		M401 M403	— —	— —	— —
保 護			保 護	—	—	—	—	—
	保護断熱		1.5	M501 M501D	—	M501 M501D	—	
熱可塑性エラ ストマー (RT-M)	露 出	非 歩 行	1.2	M101 M102	M101 M102	—	—	
		軽 歩 行	1.5	M201	—	M201	—	
		露出断熱	1.2	M401 M403	— —	— —	— —	
	保 護	保 護	—	—	—	—	—	
		保護断熱	—	—	—	—	—	
		密 着 工 法	エチレン酢酸 ビニル樹脂 (RE-F)	露 出	非 歩 行	1.0	C101 C102	C101 C102
軽 歩 行	1.0				—	—	—	—
露出断熱	—				—	—	—	—
保 護	保 護			1.0	C301 C301W	C301	C301	C301
	保護断熱			1.0	C501D C501DW	—	—	—
	地 下			後 や り	1.0	—	—	—
先 や り			1.0	—	—	—	C604	

【注】 屋内A：浴場・厨房など、B：駐車場、C：便所・機械室など
水槽類：受水槽・蓄熱槽など、人工池・庭園：建築物に取り入れたもの

屋 内			地下 駐車場	水槽類	水泳 プール	人工池 庭園	JASS 8	「標仕」 「改修標仕」 「監理指針」 「改修監理指針」
A	B	C						
—	—	—	—	—	—	—	S-RF	S-F1
—	—	—	—	—	—	—		
—	—	—	—	—	—	—		
F301W	F301W	—	F301W	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	S-PF	S-F2
—	—	—	—	—	—	—		
—	—	—	—	—	—	—		
F301	F301	F301	F301	—	—	—	S-PFT	SI-F2
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	S-RM	S-M1
—	—	—	—	—	—	—		
—	—	—	—	—	—	—		
—	—	—	—	—	—	—	S-RMT	SI-M1
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	M101	M101	—	S-PM	S-M2
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	M401	—	—	S-PMT	SI-M2
—	—	—	—	—	—	—	参考仕様	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	M101	—	—	参考仕様	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	M401	—	—	参考仕様	—
—	—	—	—	—	—	—	参考仕様	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	C101	—	C101	S-PC	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
C301	C301	C301	C301	C301	C301	C301	参考仕様	S-C1
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—

【注】RV-F201、RN-F201 及び RV-M201 は軽舗装材を塗布する。

S-C1 は、「監理指針」、「改修監理指針」の種別選定の目安では、地下室、便所、湯沸室等である。

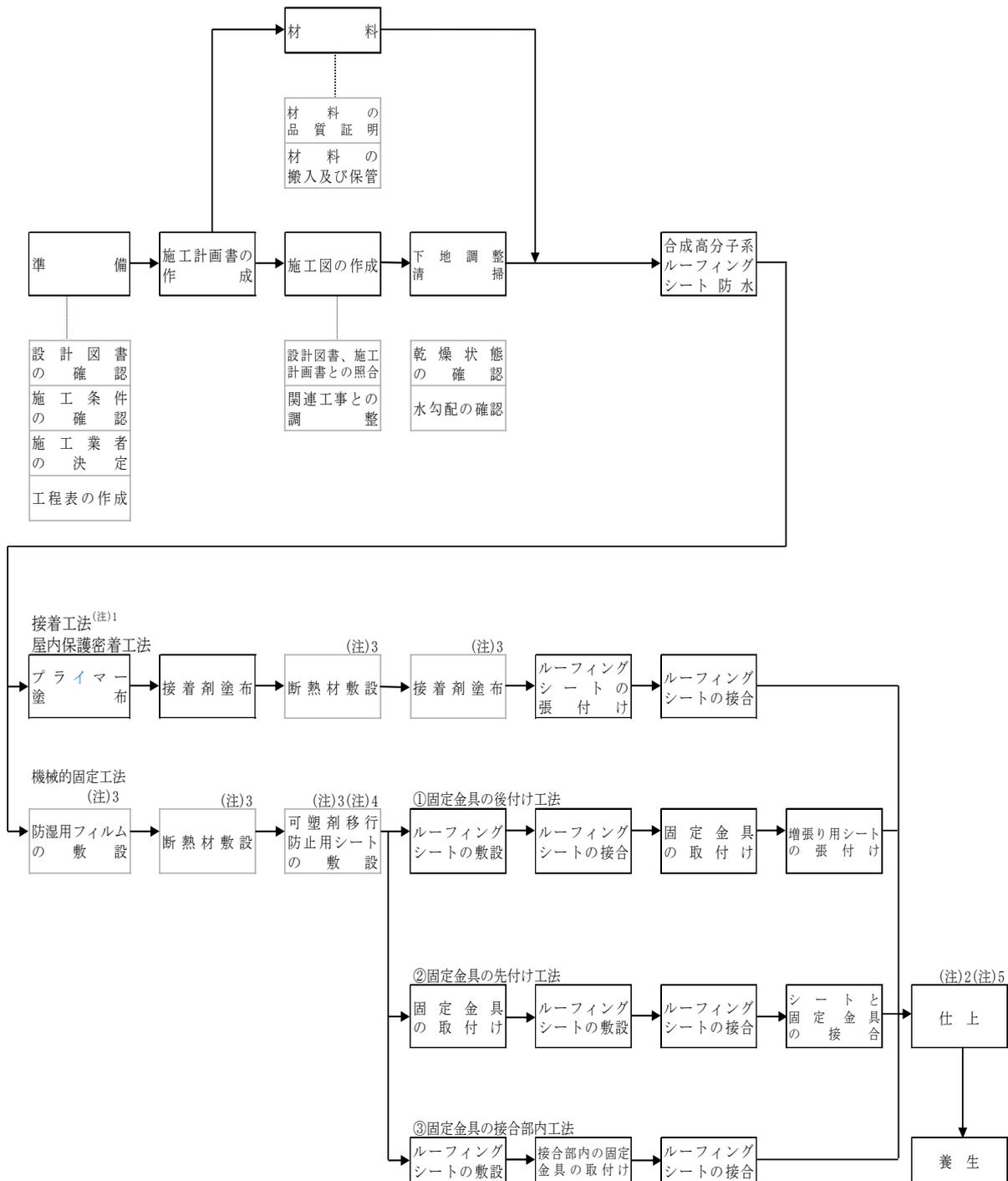
3-3 各標準工法納まり図と工程

工法（34～50頁）ごとに、適用する材料・工法・下地・対応仕様、工程表及び施工納まり図を示した（対応仕様における国土交通省とは、「標仕」・「改修標仕」・「監理指針」・「改修監理指針」を指す）。

施工納まり図及び工程は代表的な例で記載しており、メーカー工法によって変わる。特に、機械的固定工法で施工する場合は、数種の固定方法があるので注意が必要である。図3-3-1に、接着工法、密着工法及び機械的固定工法によってシート防水層を形成する仕事の流れを示す。

施工納まり図はルーフィングシート種別ごとの標準的な納まり図を一般部と特殊部位に分け、表3-3-1に一覧表として図番を明示した。工程表には標準使用量を記したが、下地調整材、軽舗装材及び固定金具の数量などは、建物の形状、下地の種類及び適用部位などにより異なるため、範囲で示した。また、シートについては標準的な厚さとした。

尚、特殊部位については、3-4以降に部位ごとに示す。



- 注) 1. 種別 S-F2 においてプライマーの塗布は、ALC パネル下地のみとする。
2. 「標仕」では規定されていないが、接着工法及び機械的固定工法で、あらかじめ着色したルーフィングシートを使用する場合は、仕上げとしての仕上塗料の塗布を省略することができる。
3. SI 工法（断熱工法）の場合、実施する。ただし、「防湿用フィルムの敷設」は特記による。
4. 種別 SI-M1 の場合は、行わない。また、SI-M2 の場合で、断熱材が硬質ウレタンフォーム断熱材及びポリエチレンフィルム、ポリエチレン加工紙又はアルミニウム層の材質の面材付押出法ポリスチレンフォーム断熱材を用いる場合は、行わない。
5. 種別 S-C1 においての仕上げは、保護モルタル塗りとする。

図 3-3-1 合成高分子系ルーフィングシート防水工事の作業の流れ

表 3-3-1 部位別工法番号一覧表

部位	工法	シート種別	KRK工法番号	適用	図番		
一般部	平場 立上り 入隅 末端	接着 工 法	加硫ゴム系	RV-F101	露出 1層 RC	01	
				RV-F102	露出 1層 PCa, ALC	02	
				RV-F201	軽歩行 1層 RC	01	
				RV-F301	保護 1層 RC	03	
				RV-F401	露出断熱 1層 RC, PCa, ALC	04	
				RV-F401S	露出断熱 1層 RC, PCa, ALC	05	
				RV-F501D	保護断熱 1層 RC	06	
			非加硫ゴム系	RN-F101	露出 1層 RC	01	
				RN-F201	軽歩行 1層 RC	01	
			塩化ビニル樹脂系	RP-F101	露出 1層 RC	07	
				RP-F102	露出 1層 PCa, ALC	08	
				RP-F201	軽歩行 1層 RC	07	
				RP-F301	保護 1層 RC	09	
				RP-F401	露出断熱 1層 RC, PCa, ALC	10	
				RP-F401S	露出断熱 1層 RC, PCa, ALC	11	
				RP-F501D	保護断熱 1層 RC	12	
			機 械 的 固 定 工 法	加硫ゴム系	RV-M101	露出 1層 RC, PCa	13
					RV-M102	露出 1層 ALC	14
					RV-M201	軽歩行 1層 RC, PCa	13
					RV-M401	露出断熱 1層 RC, PCa, ALC	15
				塩化ビニル樹脂系	RP-M101	露出 1層 RC, PCa	16
		RP-M102			露出 1層 ALC	17	
		RP-M201			軽歩行 1層 RC, PCa	16	
		RP-M401			露出断熱 1層 RC, PCa, ALC	18	
		RP-M403			露出断熱 1層 金属下地	19	
		RP-M501			保護断熱 1層 RC	20	
		RP-M501D			保護断熱 1層 RC	21	
		熱可塑性 エラストマー系		RT-M101	露出 1層 RC, PCa	22	
				RT-M102	露出 1層 ALC	23	
				RT-M201	軽歩行 1層 RC, PCa	22	
				RT-M401	露出断熱 1層 RC, PCa, ALC	24	
		RT-M403	露出断熱 1層 金属下地	25			
		密 着 工 法	エチレン酢酸 ビニル樹脂系	RE-C101	露出 1層 RC	26	
RE-C102	露出 1層 PCa, ALC			27			
RE-C301	保護 1層 RC			28-1			
	屋内保護 1層 RC			28-2			
RE-C301W	保護 2層 RC			29			
RE-C501D	保護断熱 1層 RC			30			
RE-C501DW	保護断熱 2層 RC			31			
RE-C601	地下後やり1層 RC			32			
RE-C604	地下先やり1層 山留壁			33			

部位	工法	シート種別	適用	図番	
特殊部位	接着・密着・機械的固定工法	加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系	固定金具の先付け 固定金具の後付け 固定金具の接合部内	34	
		全種	露出・軽歩行・保護・ 露出断熱・保護断熱共通	35	
		全種	同上	36	
		出隅角	加硫ゴム系 非加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 エチレン酢酸ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系	同上	37
					37
					38
					37
		入隅角	加硫ゴム系 非加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 エチレン酢酸ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系	同上	38
					39
					39
					40
		パイプ回り	接着・密着工法	加硫ゴム系 非加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 エチレン酢酸ビニル樹脂系	露出・軽歩行・保護
	39				
	40				
	39				
	機械的固定工法		加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系	露出断熱・保護断熱	40
					40
					41
					41
	ドレン回り	接着・密着工法	加硫ゴム系 非加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 エチレン酢酸ビニル樹脂系	露出・軽歩行・保護	42
					43
					44
					45
		機械的固定工法	加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系	露出断熱	46
47					
47					
48					
ドレン回り	接着・密着工法	加硫ゴム系 非加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 エチレン酢酸ビニル樹脂系	露出・軽歩行・保護	48	
				49	
				49	
				50	
	機械的固定工法	加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系	露出断熱・保護断熱	50	
				50	
				51	
				52	
機械的固定工法	加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系	露出断熱	53		
			54		
			55		
			56		
機械的固定工法	加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系	露出・軽歩行	56		
			57		
			57		
			58		
機械的固定工法	加硫ゴム系 塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系	露出断熱	58		
			59		
			59		
			59		

注記) 歩行・非歩行・軽歩行の定義

【歩行】

- ・不特定多数の人が歩行し、台車等も走行する場合。

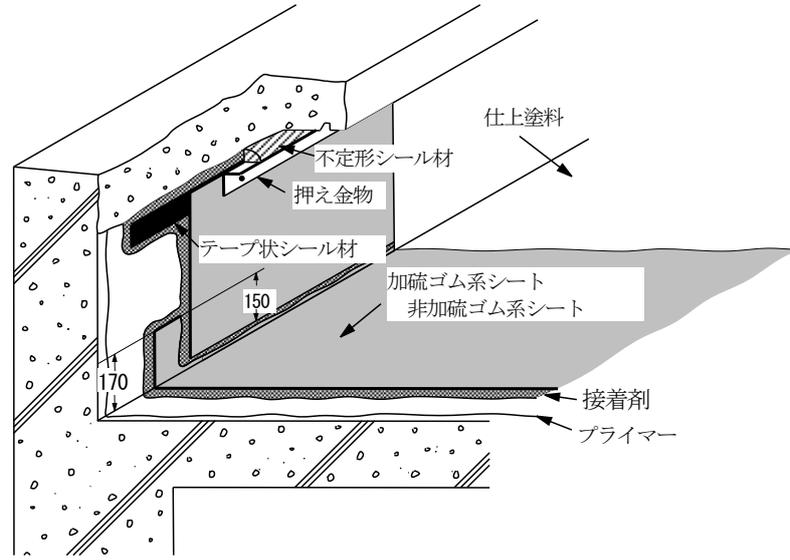
【軽歩行】

- ・びょうのない革底の靴、ゴム底の靴、スリッパなどによる、所有者やその家族、維持管理関係などの比較的限定された人のみが歩行する場合。

【非歩行】

- ・露出防水層において歩行頻度が極めて少ない場合。

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RV-F101	加硫ゴム系シート	露出接着	RC	S-RF	S-F1
RN-F201				—	—
RN-F101	非加硫ゴム系シート	露出接着	RC	—	—
RN-F201				—	—



図番 01

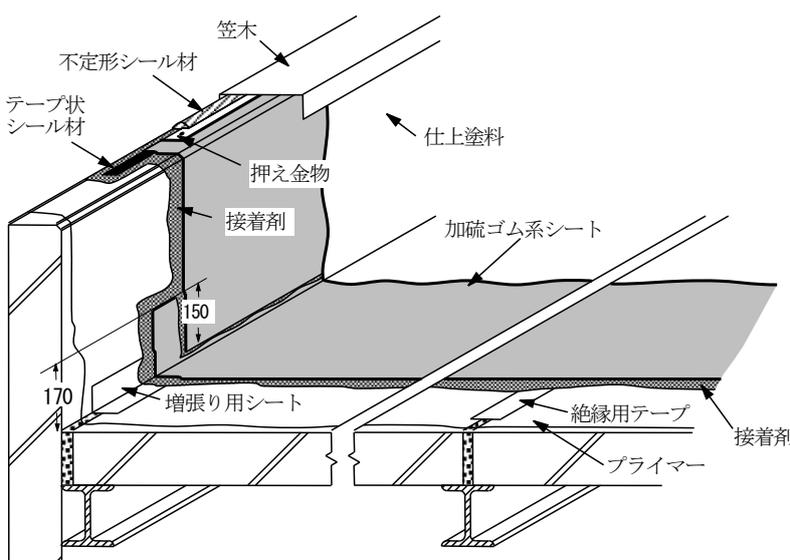
[備考]

(1)RV-F201, RN-F201は軽舗装材を塗布する（*工程表参照）。

(2)パラペットに笠木を用いる場合はRV-F102, RN-F102を参照（以下同）。

工程	材料	1	2	3	4	4*	
工法	屋根 勾配	プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	仕上げ塗料 (kg/m ²)	軽舗装材 (kg/m ²)	
	RV-F101 RV-F201	1/100	0.2	0.4	1.2	0.25	0.8~1.5
	RN-F101 RN-F201	以上	0.2	0.4	2.0	0.25	0.8~1.5

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RV-F102	加硫ゴム系シート	露出接着	PCa, ALC	S-RF	S-F1



図番 02

[備考]

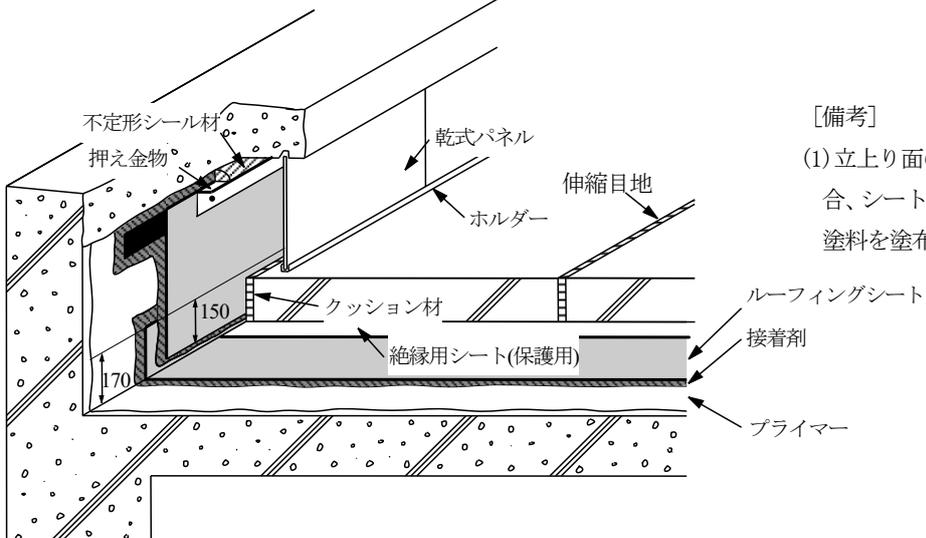
* (1) 下地調整材の適用、使用量及び下地調整材を処理した場合のプライマーの塗布はルーフィングシート製造所の仕様による。

(2) PCa部材、ALCパネルの短辺接合部は絶縁用テープを張る。

工程	材料	1*	2	3	4	5	
工法	屋根 勾配	下地調整材 (kg/m ²)	プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	仕上げ塗料 (kg/m ²)	
	RV-F102	1/100以上	0.3~1.2	0.3	0.4	1.2	0.25

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RV-F301	加硫ゴム系シート	保護接着	RC	—	—

図番 03

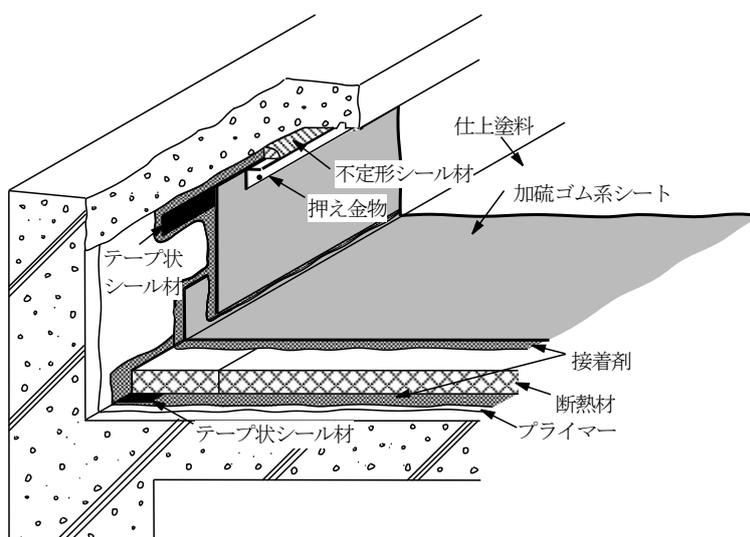


[備考]
 (1) 立上り面のシートを露出する場合、シートは1.2mm厚を使用し仕上塗料を塗布する。

工程	1	2	3	4	—		
材料	屋根 勾配	プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	絶縁用シート (m ² /m ²)		
工法	RV-F301	1/100以上	0.2	0.2	1.7	1.1	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RV-F401	加硫ゴム系シート	露出断熱接着	RC, PCa, ALC	S-RFT	SI-F1

図番 04



[備考]
 (1) 断熱材はポリエチレンフォームを用いる。
 (2) 工程1でALCの場合プライマーは、0.3kg/m²とする。
 (3) 仕上塗料に高日射反射率塗料を使用する場合は0.3kg/m²塗布する。

工程	1	2	3	4	5	6		
材料	屋根 勾配	プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	断熱材 (m ² /m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	仕上塗料 (kg/m ²)	
工法	RV-F401	1/100以上	0.2	0.4	1.0	0.4	1.2	0.25

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RV-F401S	加硫ゴム系シート	露出断熱接着	RC, PCa, ALC	—	—

図番 05

[備考]

- (1)断熱材は接着工法用の硬質ウレタンフォームを使用する。
- (2)ALCパネルの場合、下地調整材の適用、使用量及び下地調整材を処理した場合のプライマーの塗布はルーフィングシート製造所の仕様による。
- (3)工程4の接着剤の塗布材料は、下地面のみとする。
- (4)シートは裏面にあらかじめ接着剤を塗布したシートとする。
- (5)仕上塗料に高日射反射率塗料を使用する場合は0.3kg/m²塗布する。

工程	材料	1	2	3	4	5	6
工法	屋根 勾配	プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	断熱材 (m ² /m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	仕上塗料 (kg/m ²)
RV-F401S	1/100以上	0.2	0.4~1.0	1.0	0.15~0.25	1.2	0.25

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RV-F501D	加硫ゴム系シート	保護断熱接着D	RC	—	—

図番 06

[備考]

- (1)加硫ゴム系シートは粘着層を有した厚さ1.7mmのルーフィングシートを使用する。
- (2)断熱材はポリスチレンフォームを用いる。
- (3)立上り面のシートを露出する場合は、シートは1.2mm厚を使用し仕上塗料を塗布する

工程	材料	1	2	3	4	5
工法	屋根 勾配	プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	断熱材 (m ² /m ²)	絶縁用シート (m ² /m ²)
RV-F501D	1/100以上	0.2	0.2	1.7	1.0	1.1

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-F101	塩化ビニル樹脂系シート	露出接着	RC	S-PF	S-F2
RP-F201		軽歩行接着			

図番 07

[備考]

(1) パラペットに笠木を用いる場合はRP-F102を参照。

工法	工程	材料	屋根勾配	1	2	—	—	—
				接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	—	—	—
RP-F101			1/100以上	0.4	1.5	—	—	—
RP-F201			1/100以上	0.4	2.0	—	—	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-F102	塩化ビニル樹脂系シート	露出接着	PCa, ALC	S-PF	S-F2

図番 08

[備考]

(1) PCa部材、ALCパネルの短辺接合部は絶縁用テープを張る。

(2) 下地がPCa部材の場合、プライマーは塗布しない。

工法	工程	材料	屋根勾配	1	2	3	—	—
				プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	—	—
RP-F102			1/100以上	0.3	0.4	1.5	—	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-F301	塩化ビニル樹脂系シート	保護接着	RC	—	—

図番 09

工程	1	2	3	—	—
材料	屋根	接着剤	シート	絶縁用シート	—
工法	勾配	(kg/m ²)	(mm)	(m ² /m ²)	—
RP-F301	1/100以上	0.4	1.5	1.1	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-F401	塩化ビニル樹脂系シート	露出断熱接着	RC, PCa, ALC	S-PFT	SI-F2

図番 10

[備考]
(1) 断熱材は発泡ポリエチレンフォームを使用する。

工程	1	2	3	4	—
材料	屋根	接着剤	断熱材	接着剤	シート
工法	勾配	(kg/m ²)	(m ² /m ²)	(kg/m ²)	(mm)
RP-F401	1/100以上	0.4	1.0	0.4	1.5

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-F401S	塩化ビニル樹脂系シート	露出断熱接着	RC, PCa, ALC	S-PFT	SI-F2

図番 11

[備考]

(1)断熱材は接着工法用の硬質ウレタンフォームを用いる。

(2)工程1の接着剤の塗布方法と使用量はルーフィングシート製造所の仕様による。

工程	1	2	3	4	—
材料	屋根	接着剤	断熱材	接着剤	シート
工法	屋根 勾配	接着剤 (kg/m ²)	断熱材 (m ² /m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)
RP-F401S	1/100以上	0.2~0.45	1.0	0.4	1.5

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-F501D	塩化ビニル樹脂系シート	保護断熱接着D	RC	—	—

図番 12

[備考]

(1)断熱材はポリスチレンフォームを用いる。

(2)面材付断熱材の場合は可塑性移行防止用シート不要。

工程	1	2	3	4	5
材料	屋根	接着剤	シート	可塑性移行防止用	断熱材
工法	屋根 勾配	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	シート (n ² /n ²)	断熱材 (m ² /m ²)
RP-F501D	1/100以上	0.4	1.5	1.1	1.0

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
R V - M 1 0 1	加硫ゴム系シート	露出機械的固定	RC, PCa	S-RM	S-M1
R V - M 2 0 1		軽歩行機械的固定		—	—

図番 13

[備考]

(1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。

(2) 改修工事においてはルーフィングシートの敷設に先だち絶縁用シートを敷設する。

工法	工程	材料	1	2	3	4	
			屋根 勾配	絶縁用シート (m ² /m ²)	固定金具 (個/m ²)	シート (mm)	仕上塗料 (kg/m ²)
R V - M 1 0 1		1/100	1.1	1.1~2.8	1.5	0.25	—
R V - M 2 0 1		以上	1.1	1.1~2.8	1.5	—	0.8~1.5

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
R V - M 1 0 2	加硫ゴム系シート	露出機械的固定	ALC	S-RM	—

図番 14

[備考]

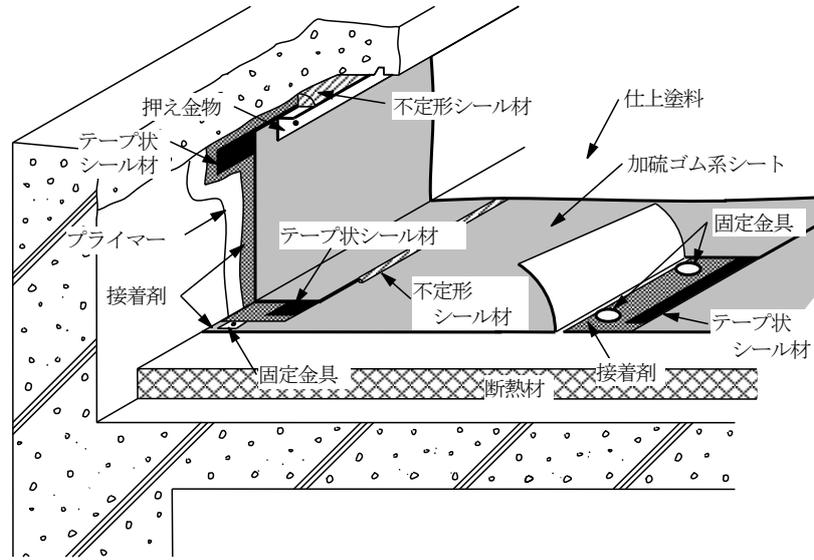
(1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。

(2) 改修工事においてはルーフィングシートの敷設に先だち絶縁用シートを敷設する。

工法	工程	材料	1	2	3	4	—
			屋根 勾配	絶縁用シート (m ² /m ²)	固定金具 (個/m ²)	シート (mm)	仕上塗料 (kg/m ²)
R V - M 1 0 2		1/100 以上	1.1	1.1~2.8	1.5	0.25	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
R V - M 4 0 1	加硫ゴム系シート	露出断熱 機械的固定	RC, PCa, ALC	S-RMT	SI-M1 *1

図番 15

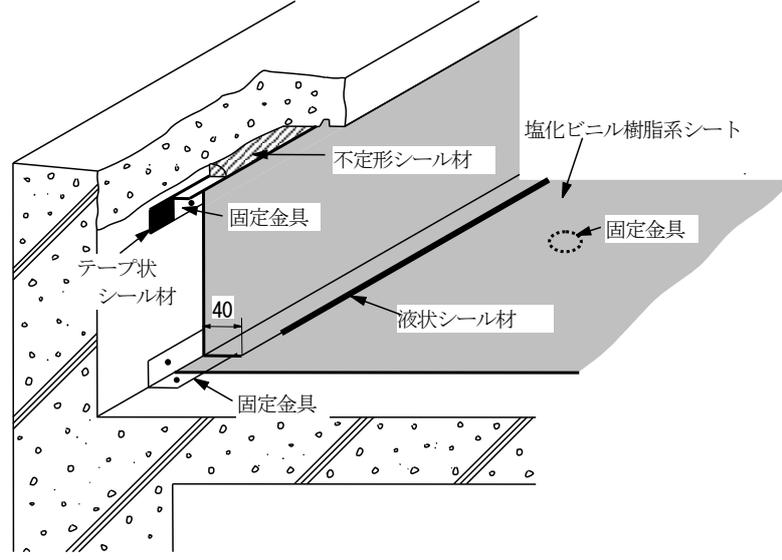


[備考]
 (1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。
 (2) 仕上塗料に高日射反射率塗料を使用する場合は0.3kg/m²。
 *1 公共建築工事標準仕様書では、ALCパネル下地の場合、機械的固定工法は適用しない。

工程		1	2	3	4	—
材料	屋根 勾配	断熱材 (m ² /m ²)	固定金具 (個/m ²)	シート (mm)	仕上塗料 (kg/m ²)	—
工法	R V - M 4 0 1	1/100 以上	1.0	1.1~2.8	1.5	0.25

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
R P - M 1 0 1 R P - M 2 0 1	塩化ビニル樹脂系シート	露出機械的固定 軽歩行機械的固定	RC, PCa	S-PM	S-M2

図番 16



[備考]
 (1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。
 (2) 立上り部を接着する場合のシートの納まりはRP-F101を参照。

工程		1	2	—	—	—
材料	屋根 勾配	固定金具 (個/m ²)	シート (mm)	—	—	—
工法	R P - M 1 0 1	1/100 以上	1.1~2.8	1.5	—	—
	R P - M 2 0 1		1.1~2.8	2.0	—	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-M102	塩化ビニル樹脂系シート	露出 機械的固定	ALC	S-PM	—

図番 17

[備考]

(1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。

(2) 立上り部を接着する場合のシートの納まりはRP-F102を参照。

(3) 改修工事においてはルーフィングシートの敷設に先だち絶縁用シートを敷設する。

工程		1	2	3	—	—
材料	屋根 勾配	絶縁用シート (m ² /m ²)	固定金具 (個/m ²)	シート (mm)	—	—
工法	RP-M102	1/100以上	1.1~2.8	1.5	—	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-M401	塩化ビニル樹脂系シート	露出断熱 機械的固定	RC, PCa, ALC	S-PMT	SI-M2 *1

図番 18

[備考]

(1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。

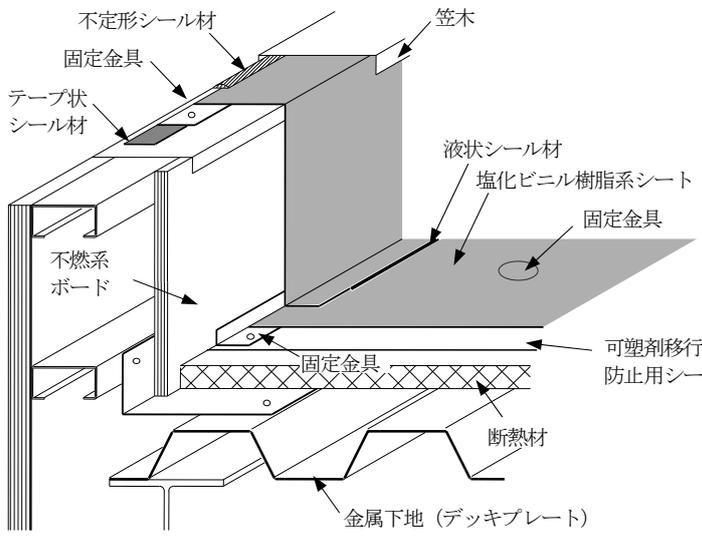
(2) 立上り部を接着する場合のシートの納まりはRP-F101を参照。

(3) 面材付断熱材の場合は可塑剤移行防止用シート不要。

*1 公共建築工事標準仕様書では、ALCパネル下地の場合には、機械的固定工法は適用しない。

工程		1	2	3	4	—
材料	屋根 勾配	断熱材 (m ² /m ²)	可塑剤移行防止用 シート(m ² /m ²)	固定金具 (個/m ²)	シート (mm)	—
工法	RP-M401	1/100以上	1.1	1.1~2.8	1.5	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-M403	塩化ビニル樹脂系シート	露出断熱 機械的固定	金属	参考仕様	—



図番 19

[備考]

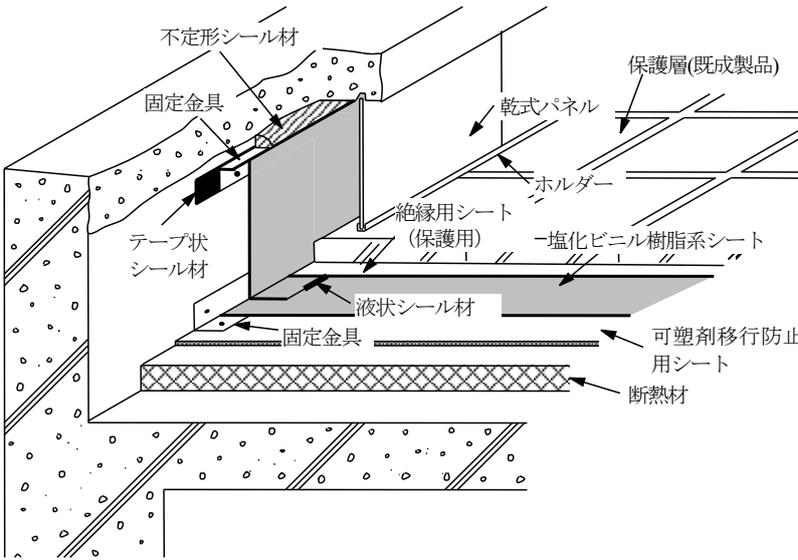
(1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。

(2) 立上り部を接着する場合のシートの納まりはRP-F101を参照。

(3) 面材付断熱材の場合は可塑剤移行防止用シート不要。

工程	1	2	3	4	—
材料	屋根	断熱材	可塑剤移行防止用シート	固定金具	シート
工法	勾配	(m^2/m^2)	(m^2/m^2)	($個/m^2$)	(mm)
RP-M403	1/100以上	1.0	1.1	1.1~2.8	1.5

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-M501	塩化ビニル樹脂系シート	保護断熱 機械的固定	RC	—	—



図番 20

[備考]

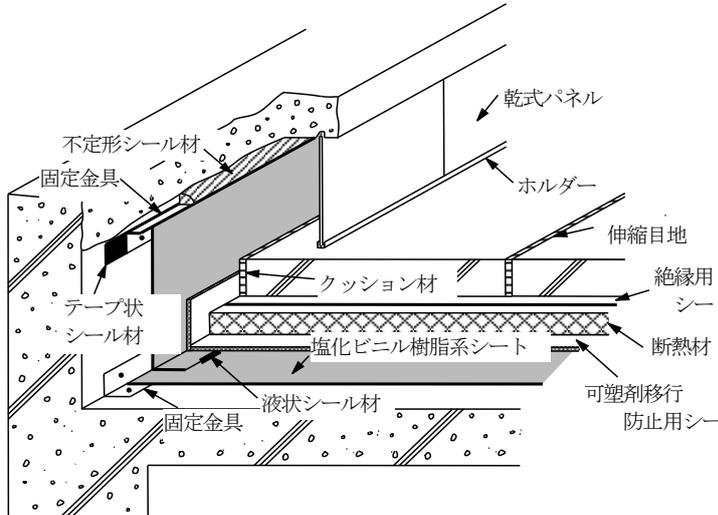
(1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。

(2) 立上り部を接着する場合のシートの納まりはRP-F101を参照。

(3) 断熱材は、ポリスチレンフォームを用いる。

工程	1	2	3	4	5	
材料	屋根	断熱材	可塑剤移行防止用シート	固定金具	シート	
工法	勾配	(m^2/m^2)	(m^2/m^2)	($個/m^2$)	(mm)	(m^2/m^2)
RP-M501	1/100以上	1.0	1.1	1.1~2.8	1.5	1.1

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RP-M501D	塩化ビニル樹脂系シート	保護断熱 機械的固定D	RC	—	—



図番 21

[備考]

(1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。

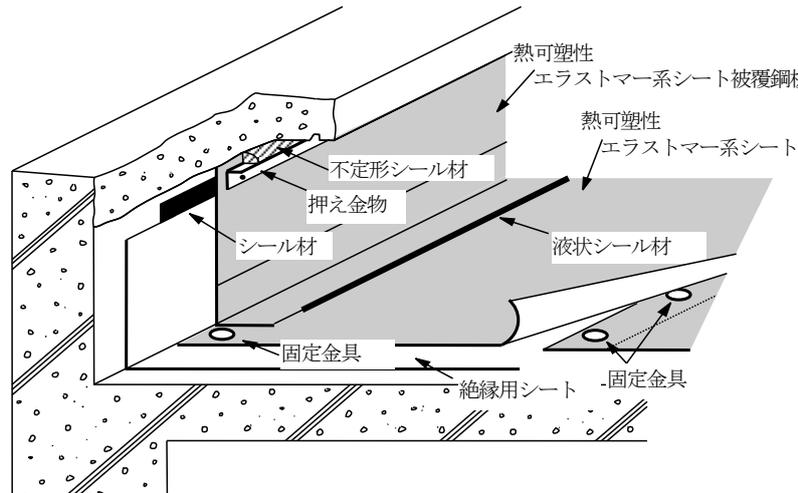
(2) 立上り部を接着する場合のシートの納まりはRP-F101を参照。

(3) 面材付断熱材の場合は可塑剤移行防止用シート不要。

(4) 断熱材はポリスチレンフォームを用いる。

工程	1	2	3	4	5
材料	固定金具 (個/㎡)	シート (mm)	可塑剤移行防止用シート (㎡/㎡)	断熱材 (㎡/㎡)	絶縁用シート (㎡/㎡)
工法	1/100 以上	1.1~2.8	1.5	1.1	1.1

RK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RT-M101	熱可塑性エラストマー系シート	露出機械的固定	RC, PCa	参考仕様	—
RT-M201		軽歩行機械的固定		—	—



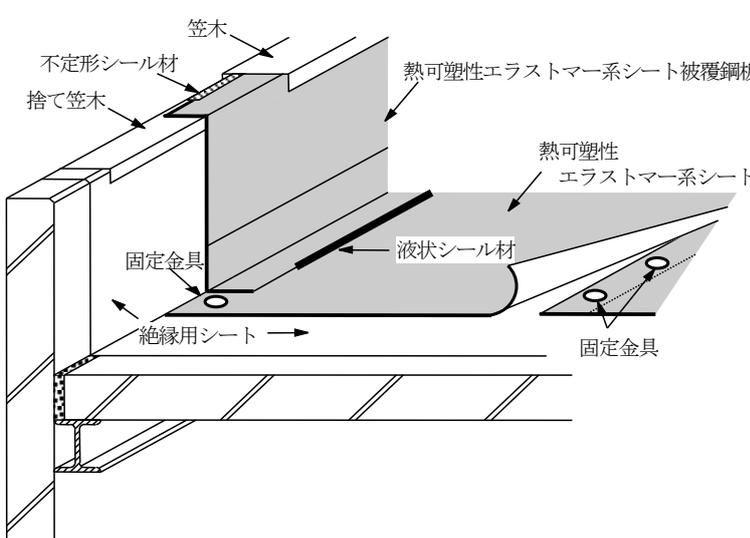
図番 22

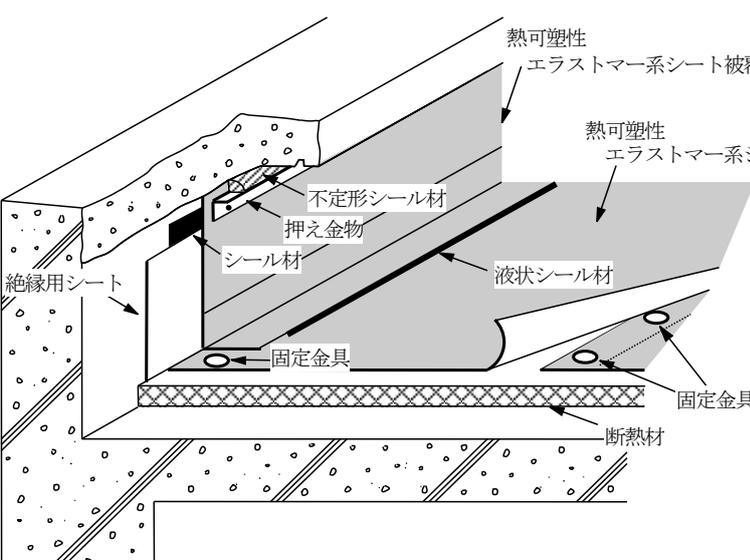
[備考]

(1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。

(2) ルーフィングシートの敷設に先だち絶縁用シートを敷設する。

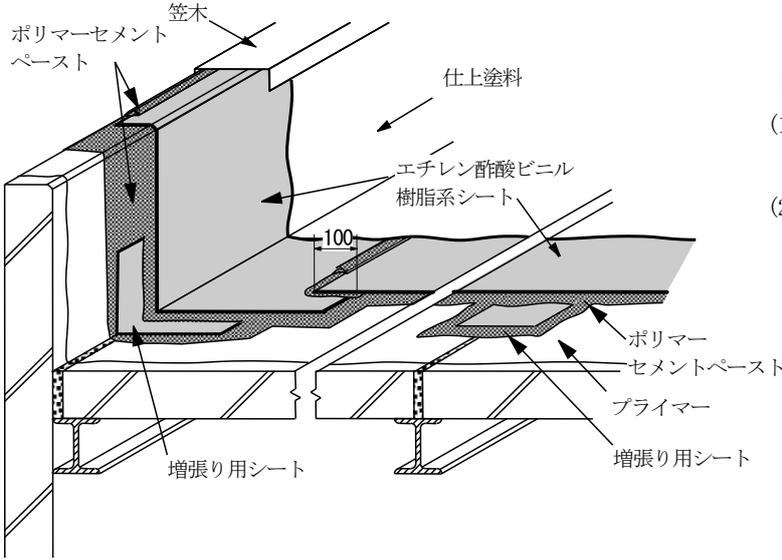
工程	1	2	3	—	—
材料	絶縁用シート (㎡/㎡)	固定金具 (個/㎡)	シート (mm)	—	—
工法	1/100 以上	1.3~6.3	1.2	—	—
RT-M101	1.1	1.3~6.3	1.2	—	—
RT-M201	1.1	1.3~6.3	1.5	—	—

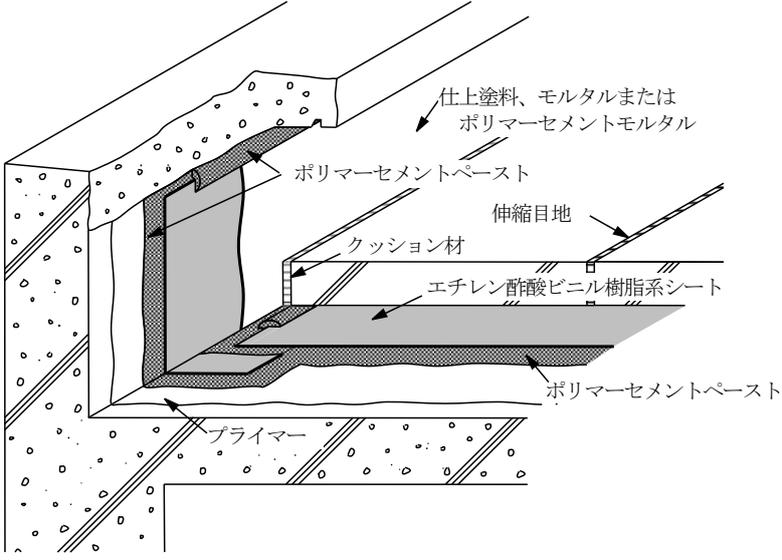
KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省	
RT-M102	熱可塑性エラストマー系シート	露出 機械的固定	ALC	参考仕様	—	
<div style="border: 2px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">図番 23</div>						
 <p>[備考] (1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。 (2) ルーフィングシートの敷設に先立ち絶縁用シートを敷設する。</p>						
工程		1	2	3	—	—
材料	屋根 勾配	絶縁用シート (m^2/m^2)	固定金具 ($\text{個}/\text{m}^2$)	シート (mm)	—	—
工法						
RT-M102	1/100以上	1.1	1.3~6.3	1.2	—	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省	
RT-M401	熱可塑性エラストマー系シート	露出断熱 機械的固定	RC, PCa, ALC	参考仕様	—	
<div style="border: 2px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">図番 24</div>						
 <p>[備考] (1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。 (2) 立上りは、ルーフィングシートの敷設に先立ち絶縁用シートを敷設する。</p>						
工程		1	2	3	—	—
材料	屋根 勾配	断熱材 (m^2/m^2)	固定金具 ($\text{個}/\text{m}^2$)	シート (mm)	—	—
工法						
RT-M401	1/100以上	1.0	1.3~6.3	1.2	—	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省	
RT-M403	熱可塑性エラストマー系シート	露出断熱 機械的固定	金属	参考仕様	—	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">図番 25</div>						
<p style="text-align: right;">[備考] (1) シートの固定方法はルーフィングシート製造所の仕様による。</p>						
工程		1	2	3	—	—
材料	屋根 勾配	断熱材 (m^2/m^2)	固定金具 (個/ m^2)	シート (mm)	—	—
RT-M403	1/100以上	1.0	1.3~6.3	1.2	—	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省	
RE-C101	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート	露出密着	RC	S-PC	—	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">図番 26</div>						
<p style="text-align: right;">[備考] (1) パラペットに笠木を用いる場合はRE-C102を参照。 (2) S-PC仕様の場合は、工程4はポリマーセメントモルタル塗り ($7.0\text{kg}/\text{m}^2$) とする。</p>						
工程		1	2	3	4	—
材料	屋根 勾配	プライマー (kg/m^2)	接着剤 (kg/m^2)	シート (mm)	仕上塗料 (kg/m^2)	—
RE-C101	1/100以上	0.3	3.0	1.0	0.6~0.8	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省		
RE-C102	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート	露出密着	PCa, ALC	S-PC	—		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">図番 27</div>							
 <p>[備考]</p> <p>(1) ALCパネルの短辺接合部及びPCa部材の継目部は同質シートを増張りする。</p> <p>(2) S-PC仕様の場合は、工程4はポリマーセメントモルタル塗り (7.0kg/m²) とする。ただし、ALCパネル下地では、適用外となる。</p>							
工程		1	2	3	4	—	
材料	屋根勾配	プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	仕上塗料 (kg/m ²)	—	
工法	RE-C102	1/100以上	0.3	3.0	1.0	0.6~0.8	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省	
RE-C301	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート	保護密着	RC	参考仕様	—	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">図番 28-1</div>						
 <p>[備考]</p> <p>(1) 立上りの仕上げは、ルーフィングシート製造所の仕様による。</p>						
工程		1	2	3	—	—
材料	屋根勾配	プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	—	—
工法	RE-C301	1/100以上	0.3	3.0	1.0	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RE-C301	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート	屋内保護密着	RC	—	S-C1

図番 28-2

[備考]

(1) S-C1仕様は、屋内防水に適用する。

(2) 工程4の保護モルタルの塗り厚さは、特記による。

(3) 保護モルタル・タイルによる仕上げは特記による。

(4) 「監理指針」・「改修監理指針」での種別選定の目安は、地下室、便所、湯沸室等である。

工程		1	2	3	4
材料					
工法	屋内	プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	保護モルタル
	RE-C301	—	0.3	3.0	1.0

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RE-C301W	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート	保護二層密着	RC	—	—

図番 29

[備考]

(1) 立上りの仕上げは、ルーフィングシート製造所の仕様による。

工程		1	2	3	4	5
材料						
工法	屋根勾配	プライマー (kg/m ²)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)	接着剤 (kg/m ²)	シート (mm)
	RE-C301W	1/100以上	0.3	3.0	1.0	3.0

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RE-C501D	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート	保護断熱密着D	RC	参考仕様	—

図番 30

[備考]

- (1)断熱材はポリスチレンフォームを用いる。
- (2)工程4の接着剤の種別及び塗布方法はルーフィングシート製造所の仕様による。
- (3)JASS8参考仕様の場合は、断熱材張り付け後、絶縁用シートの敷設を行う。
- (4)立上りの仕上げは、ルーフィングシート製造所の仕様による。

工程	1	2	3	4	5	—
材料	屋根	プライマー	接着剤	シート	接着剤	断熱材
工法	屋根	kg/m ²	kg/m ²	mm	kg/m ²	m ² /m ²
RE-C501D	1/100以上	0.3	3.0	1.0	0.3	1.0

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RE-C501DW	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート	保護断熱二層密着D	RC	—	—

図番 31

[備考]

- (1)断熱材はポリスチレンフォームを用いる。
- (2)工程6の接着剤の種別及び塗布方法はルーフィングシート製造所の仕様による。
- (3)JASS8参考仕様の場合は、断熱材張り付け後、絶縁用シートの敷設を行う。
- (4)立上りの仕上げは、ルーフィングシート製造所の仕様による。

工程	1	2	3	4	5	6	7	
材料	屋根	プライマー	接着剤	シート	接着剤	シート	接着剤	断熱材
工法	屋根	kg/m ²	kg/m ²	mm	kg/m ²	mm	kg/m ²	m ² /m ²
RE-C501DW	1/100以上	0.3	3.0	1.0	3.0	1.0	0.3	1.0

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RE-C601	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート	地下後やり	RC	—	—

図番 32

[備考]

- (1) 防水施工を行うには、十分な施工スペース (1.0~1.5m) が必要である。
- (2) 防水施工後に埋戻しを行う際、防水層を損傷しないよう注意が必要である。
- (3) 防水施工後に設置する保護の種別、方法は、ルーフィングシート製造所の仕様による。(別途工事の場合有り)

工程		1	2	3	—
材料	屋根	プライマー	接着剤	シート	—
工法	勾配	(kg/m ²)	(kg/m ²)	(mm)	—
RE-C601	—	0.3	3.0	1.0	—

KRK工法番号	シート種別	工法の種類	適用下地	JASS 8	国土交通省
RE-C604	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート	地下先やり	山留壁	—	—

図番 33

[備考]

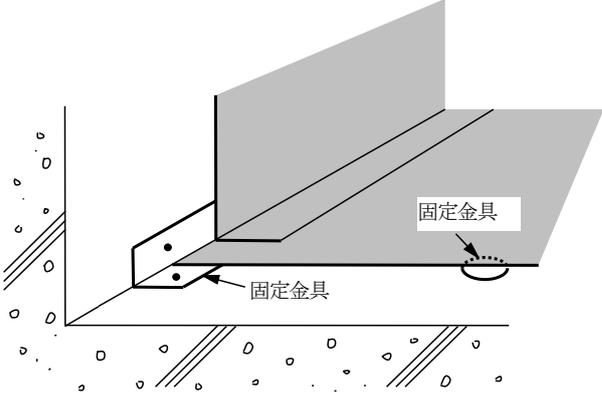
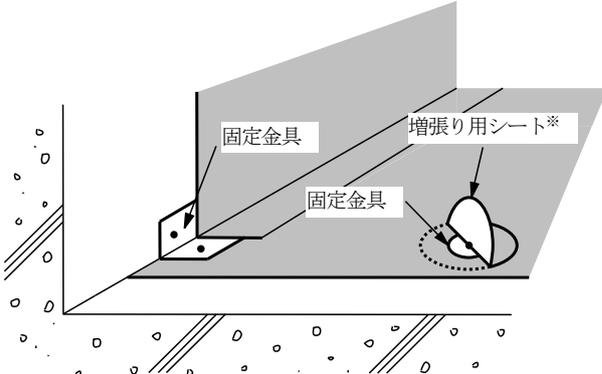
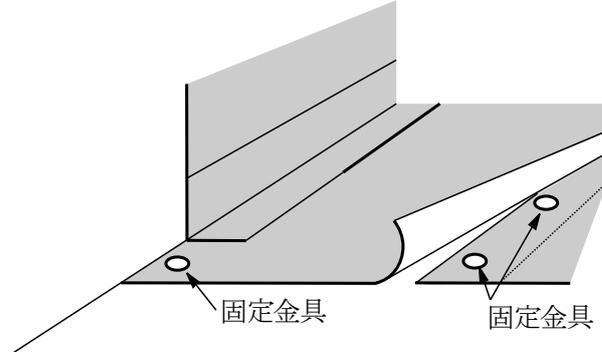
- (1) 適用する山留壁は、横矢板、SMW、シートパイルとする。
- (2) 工程2(接合部)、工程3(増張り用シート)の接着剤の種別及び塗布方法は、ルーフィングシート製造所の仕様による。

工程		1	2	3	4
材料	屋根	シート	接着剤	接着剤	増張り用シート
工法	勾配	(mm)	(kg/m ²)	(kg/m ²)	(mm)
RE-C604	—	1.0	0.3	0.01~0.03	1.0

3-4 機械的固定工法のシートの固定方法

機械的固定工法におけるシートの下地への固定工法は、ルーフィングシート製造所の仕様ごとに異なる。一般的な固定方法を下図に示す。

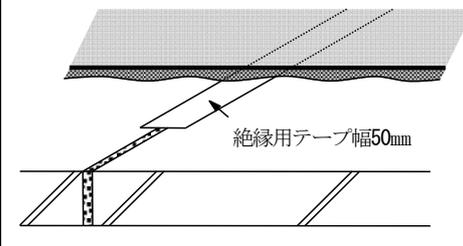
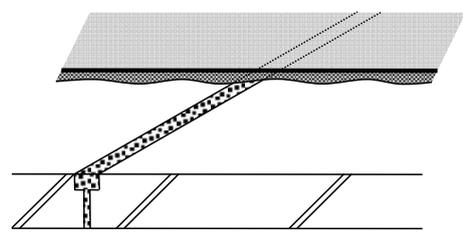
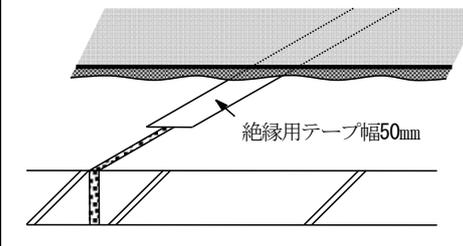
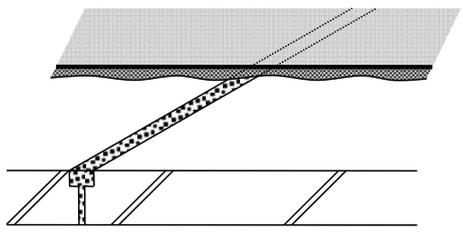
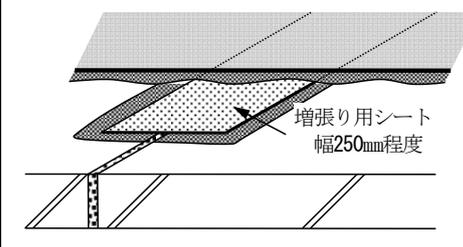
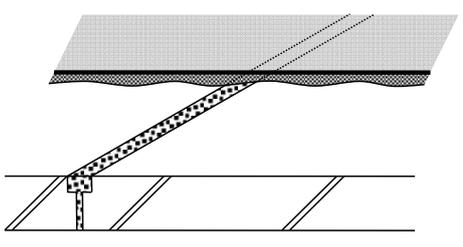
図番 34

KRK 工法 番号	シート 種別	部 位 ・ 下 地
		 <p style="text-align: center;">固定金具の先付け</p>
RV-M RP-M RT-M	加硫ゴム系シート 塩化ビニル樹脂系シート 熱可塑性エラストマー系シート	<p style="text-align: center;">※加硫ゴム系シートの場合は粘着層付き増張り用シートを使用する。</p>  <p style="text-align: center;">固定金具の後付け</p>
		 <p style="text-align: center;">固定金具の接合部内</p>

※固定方法の詳細は、ルーフィングシート製造所の仕様を確認

3-5 ALCパネル下地の接合部処理

図番 35

KPK 工法 番号	シート 種 別	部 位 ・ 下 地	
		ALCパネル短辺の接合部	ALCパネル長辺の接合部
RV- F102	加硫ゴム系 シート	 絶縁用テープ幅50mm	
RP- F102	塩化ビニル 樹脂系 シート	 絶縁用テープ幅50mm	
RE- C102	エチレン 酢酸ビニル 樹脂系 シート	 増張り用シート 幅250mm程度	

3-6 シート相互の接合

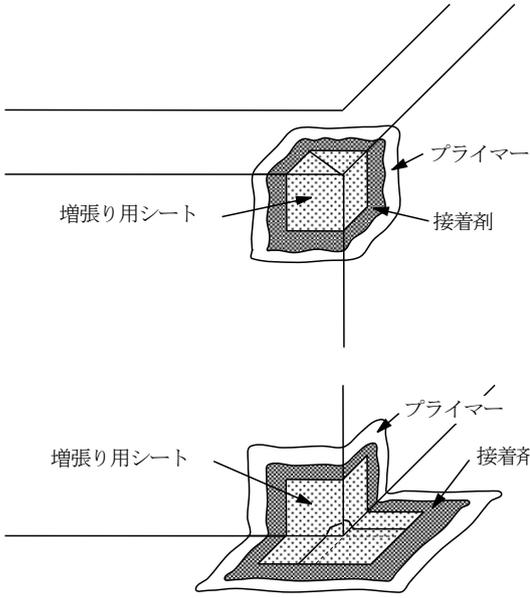
ルーフィングシート相互の接合幅は下表を標準とする。また、一般部ルーフィングシートの接合部は下図(例)に示す。

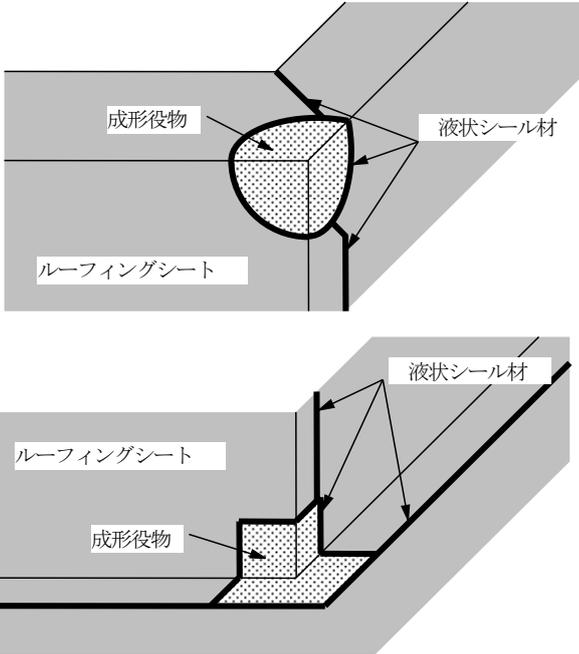
シートの種別	接合幅 (mm)	
	一般部	平場と立上りとの取合い部
RV 加硫ゴム系	100以上	150以上
RN 非加硫ゴム系	70以上	150以上
RP 塩化ビニル樹脂系	40以上	40以上
RE エチレン酢酸ビニル樹脂系	100以上	100以上
RT 熱可塑性エラストマー系	40以上	40以上

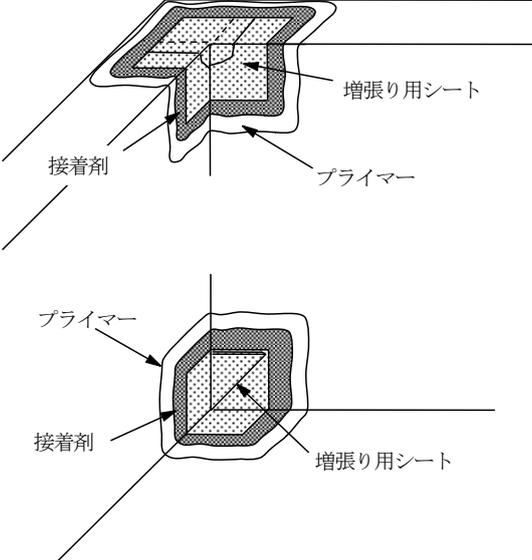
略号	シート種別	シート相互の重ね合わせ (下地共通)	
		図番 36	
RV	加硫ゴム系シート	<p>接着剤 テープ状シール材 ←100</p>	<p>接着剤 ←100</p>
RV-M	加硫ゴム系シート	<p>不定形シール材 接着剤 ←100</p>	<p>熱風融着 ←40</p>
RN	非加硫ゴム系シート	<p>接着剤 ←70</p>	
RP	塩化ビニル樹脂系シート	<p>液状シール材 溶剤溶着 ←40</p>	<p>液状シール材 熱風融着 ←40</p>
RE	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート※	<p>ポリマーセメントペースト ←100</p>	<p>接着剤 ←50</p>
RT	熱可塑性エラストマー系シート	<p>液状シール材 熱融着 ←40</p>	

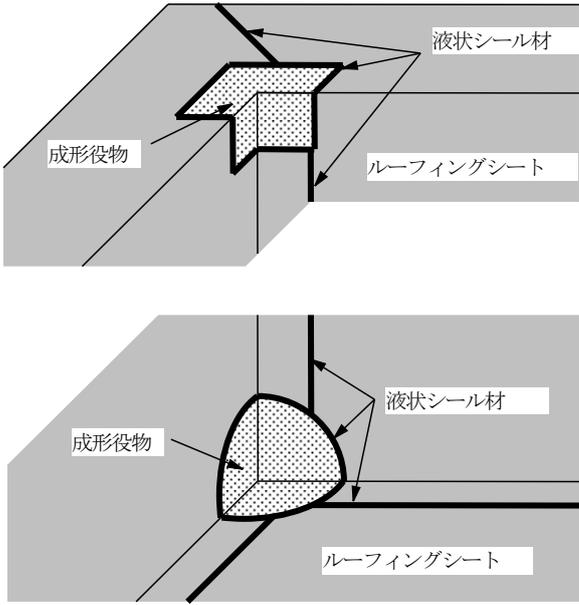
※エチレン酢酸ビニル樹脂系シート地下先やり工法の場合、接合幅は50mm

3-7 出・入隅角の処理

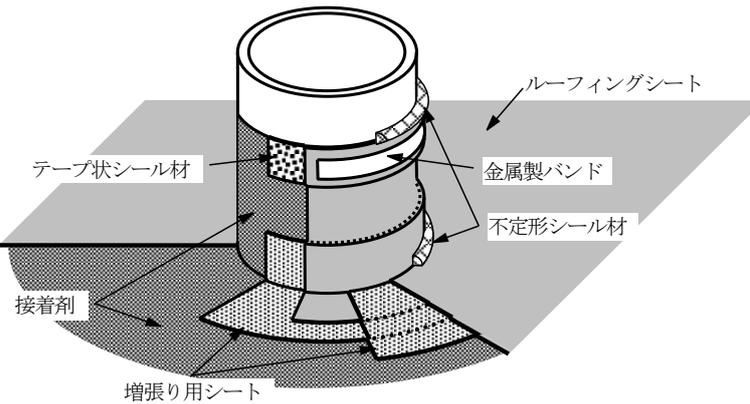
KRK工法番号	シート種別	特殊部位 出隅角	図番 37
RV-共通 RN-共通 RE-共通	加硫ゴム系 非加硫ゴム系 エチレン酢酸ビニル樹脂系		
		<p>[備考]</p> <p>(1) ルーフィングシートの張付けに先立ち増張り用シート又は成形役物を張り付ける。</p>	

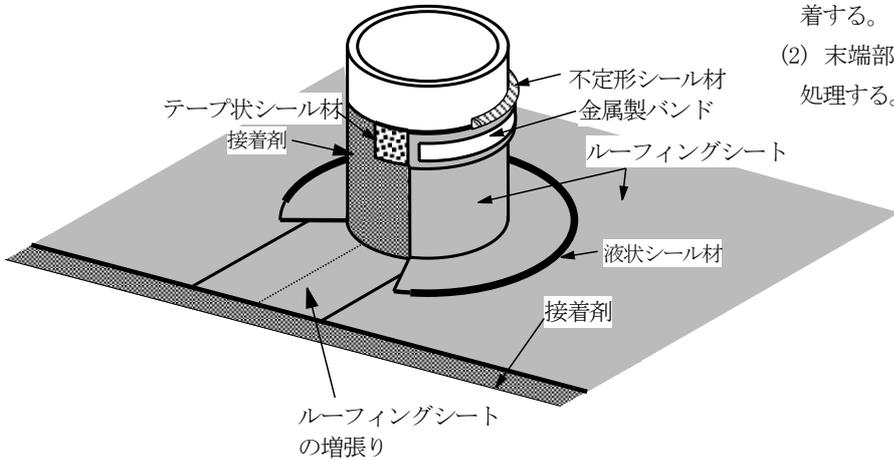
KRK工法番号	シート種別	特殊部位 出隅角	図番 38
RP-共通 RT-共通	塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系		
		<p>[備考]</p> <p>(1) ルーフィングシート張付け後に成形役物を熱風融着し、その末端部を液状シール材でシールする。</p>	

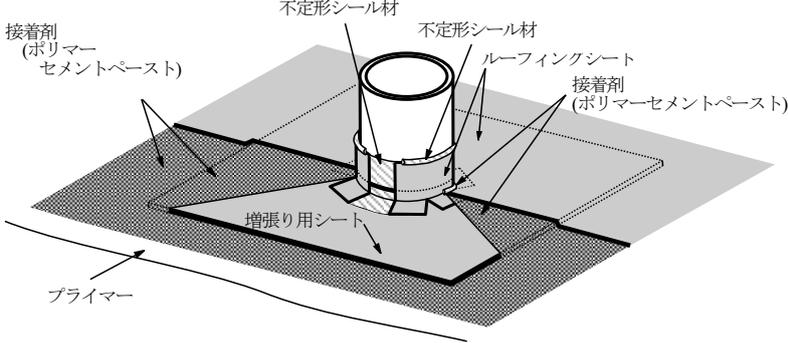
KRK工法番号	シート種別	<div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">図番 39</div> 特殊部位 入隅角
RV-共通 RN-共通 RE-共通	加硫ゴム系 非加硫ゴム系 エチレン酢酸ビニル樹脂系	
		<p>[備考]</p> <p>(1) ルーフィングシートの張付けに先立ち増張り用シート又は成形役物を張り付ける。</p>

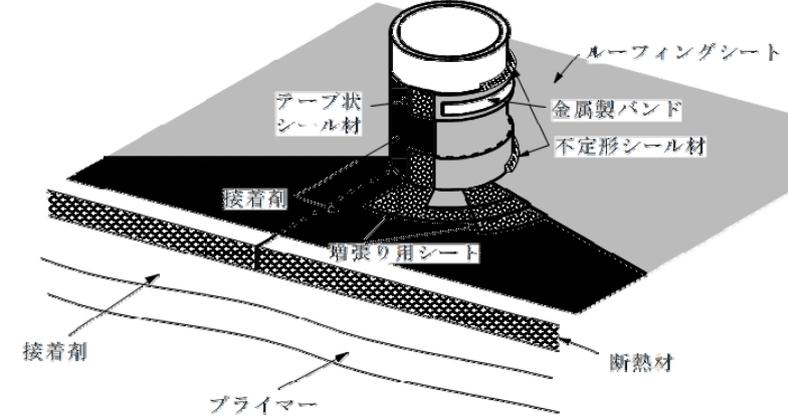
KRK工法番号	シート種別	<div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">図番 40</div> 特殊部位 入隅角
RP-共通 RT-共通	塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系	
		<p>[備考]</p> <p>(1) ルーフィングシート張付け後に成形役物を熱風融着し、その末端部を液状シール材でシールする。</p>

3-8 パイプ回りの処理

KRK工法番号	シート種別	特殊部位 パイプ回り	図番 41
RV-F RN-F	加硫ゴム系 非加硫ゴム系		
		<p>[備考]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) あらかじめ増張り用ルーフィングシートをパイプ及び下地に張り掛ける。 (2) 取合い部は切り込みすぎないようにする。 (3) 平場シートのパイプまわりを切りすぎないようにする。 (4) 末端部は不定形シール材を用いて処理する。 	

KRK工法番号	シート種別	特殊部位 パイプ回り	図番 42
RP-F	塩化ビニル樹脂系		
		<p>[備考]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) パイプに張るルーフィングシートは 20~30 mm程度めくり起こして張り付け、平場に張り下げて熱風融着する。 (2) 末端部は液状シール材を用いて処理する。 	

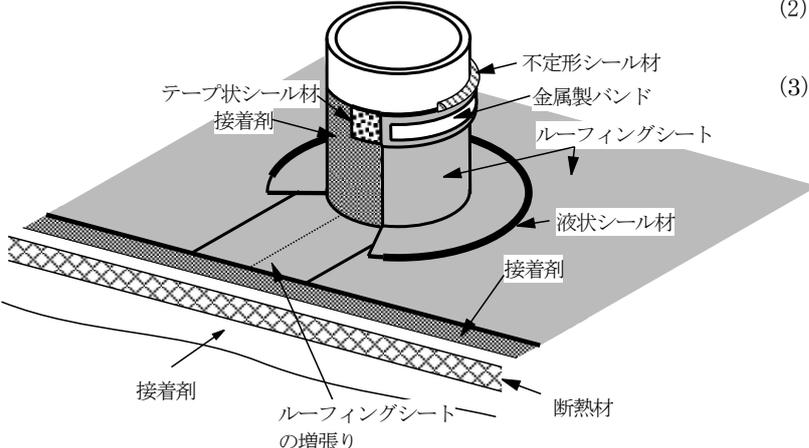
KRK工法番号	シート種別	<div style="border: 2px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;"> 図番 43 </div> 特殊部位 パイプ回り
RE-C	エチレン酢酸ビニル樹脂系	
		<p>[備考]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) パイプよりも若干小さい穴をあけた増張り用ルーフィングシートをポリマーセメントペーストで張り付ける。 (2) パイプと立上げた増張り用ルーフィングシートの間には不定形シール材を隙間なく充填する。 (3) 地下先やり工法の場合は、ルーフィング製造所の仕様による。

KRK工法番号	シート種別	<div style="border: 2px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;"> 図番 44 </div> 特殊部位 パイプ回り
RV-F断熱	加硫ゴム系	
		<p>[備考]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) あらかじめ増張り用シートをパイプ及び下地に張り付ける。 (2) 取合い部は切り込みすぎないようにする。 (3) 平場シートのパイプまわりを切りすぎないようにする。 (4) 末端部は不定形シール材を用いて処理する。 (5) ルーフィングシートの敷設に先立ち、断熱材をパイプ回りに隙間ができないように張り付ける。

KRK工法番号	シート種別	特殊部位 パイプ回り	図番 45
RP-F断熱	塩化ビニル樹脂系		

[備考]

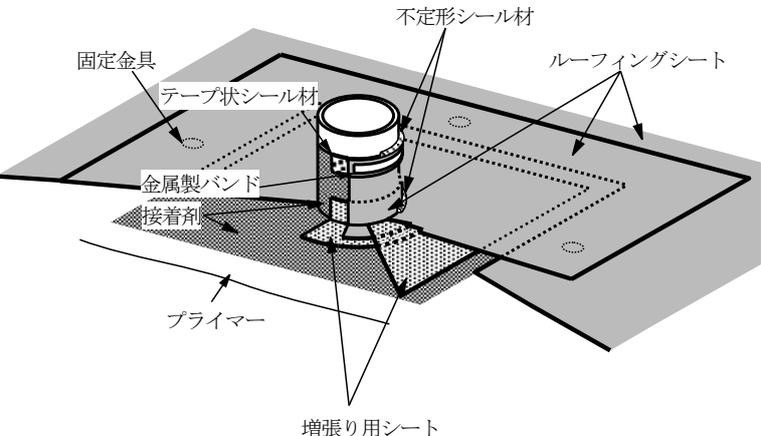
- (1) パイプに張るルーフィングシートは 20～30 mm程度めくり起こして張り付け、平場に張り下げて熱風融着する。
- (2) 末端部は液状シール材を用いて処理する。
- (3) ルーフィングシートの敷設に先立ち、断熱材をパイプ回りに隙間ができないように張り付ける。



KRK工法番号	シート種別	特殊部位 パイプ回り	図番 46
RV-M	加硫ゴム系		

[備考]

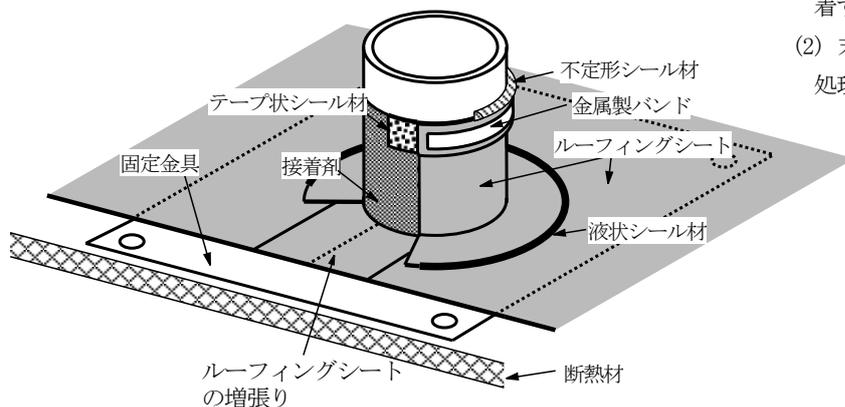
- (1) あらかじめ増張り用シートをパイプ及び下地に張り付ける。
- (2) 取合い部は切り込みすぎないようにする。
- (3) 平場シートのパイプ回りを切りすぎないようにする。
- (4) 末端部は不定形シール材を用いて処理する。



KRK工法番号	シート種別	特殊部位 パイプ回り	図番 47
RP-M RT-M	塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系		

KRK工法番号	シート種別	特殊部位 パイプ回り	図番 48
RV-M断熱	加硫ゴム系		

KRK工法番号	シート種別	特殊部位 パイプ回り	図番 49
RP-M断熱 RT-M断熱	塩化ビニル樹脂系 熱可塑性エラストマー系		

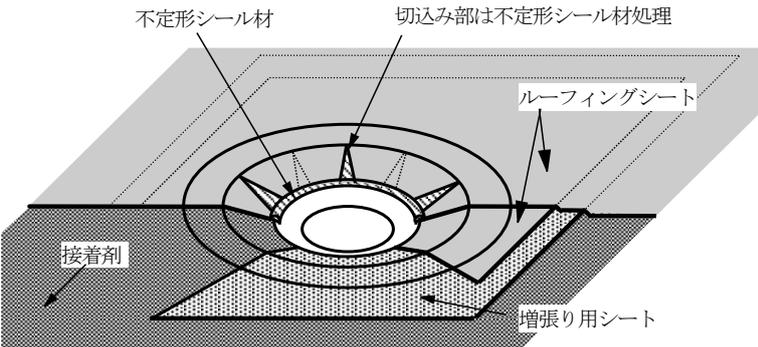


3-9 ドレン回りの処理

KRK工法番号	シート種別	図番 50
RV-F RN-F	加硫ゴム系 非加硫ゴム系	特殊部位 ドレン回り

[備考]

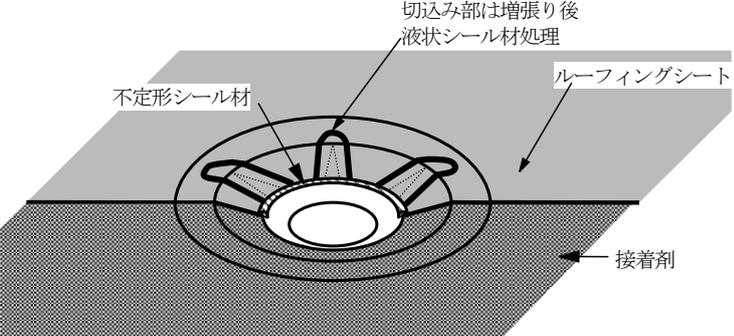
- (1) ルーフドレンと下地に増張り用ルーフィングシートを張り付ける。
- (2) ルーフドレンになじむように形状を合わせて張り付ける。
- (3) 浮き、くちあきができないように張り付け、末端部は不定形シール材で処理する。
- (4) 切込みを入れた場合は、不定形シール材で処理する。

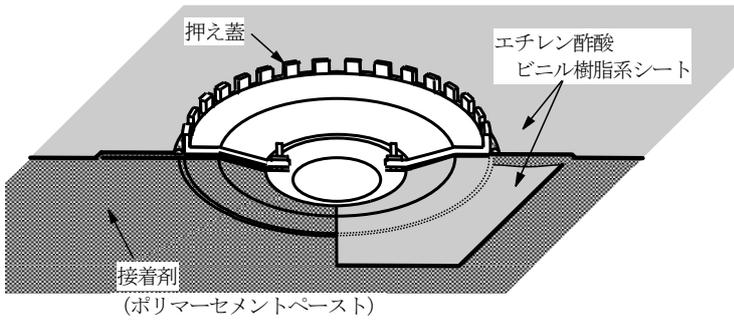


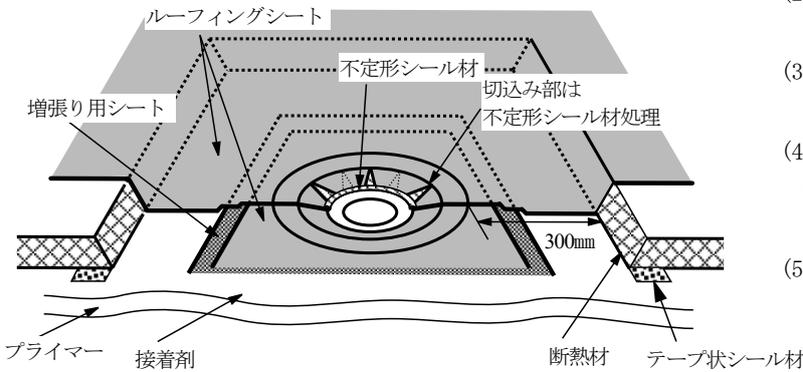
KRK工法番号	シート種別	図番 51
RP-F	塩化ビニル樹脂系	特殊部位 ドレン回り

[備考]

- (1) ルーフドレンと下地に増張り用ルーフィングシートを張り付ける。
- (2) ルーフドレンになじむように形状を合わせて張り付ける。
- (3) 浮き、くちあきができないように張り付け、末端部は不定形シール材で処理する。
- (4) 切込みを入れた場合は、切込み部に増張りし、液状シール材で処理する。



KRK工法番号	シート種別	特殊部位 ドレン回り	図番 52
RE-C	エチレン酢酸ビニル樹脂系		
		<p>[備考]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ルーフドレンと下地に増張り用ルーフィングシートを張り付ける。 (2) ルーフドレンになじむように形状を合わせて張り付ける。 (3) ポリマーセメントペーストで増張り用ルーフィングシート張り付け直後にドレンの押え蓋を取り付ける。 	

KRK工法番号	シート種別	特殊部位 ドレン回り	図番 53
RV-F断熱	加硫ゴム系		
		<p>[備考]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 断熱材をドレンのつばの300mm手前で止め、端部は45°程度の勾配とする。 (2) ルーフドレンと下地に増張り用ルーフィングシートを張り付ける。 (3) ルーフドレンになじむように形状を合わせて張り付ける。 (4) 浮き、くちあきができないように張り付け、末端部は不定形シール材で処理する。 (5) 切込みを入れた場合は、不定形シール材で処理する。 	

KRK工法番号	シート種別	特殊部位 ドレン回り	図番 54
RP-F断熱	塩化ビニル樹脂系		

[備考]

- (1) 断熱材をドレンのつばの300mm手前で止め、端部は45°程度の勾配とする。
- (2) ルーフドレンと下地に増張り用シートを張り付ける。
- (3) ルーフドレンになじむように形状を合わせて張り付ける。
- (4) 浮き、くちあきができないように張り付け、末端部は不定形シール材で処理する。
- (5) 切込みを入れた場合は、切込み部に増張りし、液状シール材で処理する。

KRK工法番号	シート種別	特殊部位 ドレン回り	図番 55
RE-C断熱	エチレン酢酸ビニル樹脂系		

[備考]

- (1) ルーフドレンと下地に増張り用シートを張り付ける。
- (2) ルーフドレンになじむように形状を合わせて張り付ける。
- (3) 増張り用シートを張り付けた直後、押え蓋を取り付ける。
- (4) 断熱材は、ポリスチレンフォームを使用する。
- (5) 断熱材用接着剤の種別及び塗布方法はルーフィングシート製造所の仕様による。
- (6) 断熱材をドレンのつばの300mm手前で止め、端部は45°程度の勾配とする。

KRK工法番号	シート種別	特殊部位 ドレン回り	図番 56
RV-M	加硫ゴム系		

[備考]

- (1) ルーフドレンと下地に増張り用シートを張り付ける。
- (2) ルーフドレンになじむように形状を合わせて張り付ける。
- (3) 浮き、くちあきができないように張り付け、末端部は不定形シール材で処理する。
- (4) 切込みを入れた場合は、不定形シール材で処理する。

KRK工法番号	シート種別	特殊部位 ドレン回り	図番 57
RP-M RT-M	塩化ビニル樹脂系シート 熱可塑性エラストマー系シート		

[備考]

- (1) ルーフドレンと下地に増張り用シートを張り付ける。
- (2) ルーフドレンになじむように形状を合わせて張り付ける。
- (3) 浮き、くちあきができないように張り付け、末端部は不定形シール材で処理する。
- (4) 切込みを入れた場合は、切込み部に増張りし、液状シール材で処理する。

KRK工法番号	シート種別	<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">図番58</div>
RV-M断熱	加硫ゴム系	
		特殊部位 ドレン回り
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> </div> <div style="width: 35%;"> <p>[備考]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 断熱材をドレンのつばの300mm手前で止め、端部は45°程度の勾配とする。 (2) ルーフドレンと下地に増張り用シートを張り付ける。 (3) ルーフドレンになじむように形状を合わせて張り付ける。 (4) 浮き、くちあきができないように張り付け、末端部は不定形シール材で処理する。 (5) 切込みを入れた場合は、不定形シール材で処理する。 </div> </div>		

KRK工法番号	シート種別	<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">図番59</div>
RP-M断熱 RT-M断熱	塩化ビニル樹脂系シート 熱可塑性エラストマー系シート	
		特殊部位 ドレン回り
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> </div> <div style="width: 35%;"> <p>[備考]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 断熱材をドレンのつばの300mm手前で止め、端部は45°程度の勾配とする。 (2) ルーフドレンと下地に増張り用シートを張り付ける。 (3) ルーフドレンになじむように形状を合わせて張り付ける。 (4) 浮き、くちあきができないように張り付け、末端部は不定形シール材で処理する。 (5) 切込みを入れた場合は、切込み部に増張りし、液状シール材で処理する。 (6) 熱可塑性エラストマーシートの場合、可塑剤移行防止用シート不要。 </div> </div>		